



特別
13
3515
2



門 13
號 3515
卷 2



風流東海硯

二之卷

目録



才一 さいいつ 合張 あいはり 廊 ろう 下 した 廊 ろう の の よい よい 筆 筆

小判 こばん の の 威 い 光 みつ 寺 てら 下 した 五 ご 神 かみ 本 もと 末 すえ を を

禪 ぜん と と 乃 の ま ま と と 舌 した 教 きょう 入 いれ る る 合 あ 合 あ の の

付 つ き き いた いた る る 文 ぶん 體 たい 篇 ぺん 土 つち 佐 さ 坊 ぼう が が

後 のち の の 右 みぎ を を 記 しる す

昭和三十年
七月九日
購求

才二 女房の根と押と判を判に記流の流人

よおれをのりいふなまきりげの

娘らひ

類へ増進力いふらぬいふとんぐ

は師太若

歌と味方と種とまくのいふに類

足牙の夢

才三 室の鑑刀持流の鑑屋に鑑習

年いふとむ三束の舌次が

分派

武蔵坊二誘南の魚性令の

又見え

室もててて二んいけつははるもの

を三右

才一 金瓶を廊とまひりぬい花車

左半の天子と賢王の徳と称せ。夜との言ふ

金帝も揚そねといつる矢君とゆまひてよを。

魚い流日小聲とまひりて。南西の花を碎と

すち敷い色青席と印じて。あまはたふ

ねをとおまけられた世の政とまひりて。はら

とらむつれをいわたる。ちのちも長かるも。

皆有頂天とめて。人のそと世のあつくと

うりま。むさしに奈れ出るものをし。た今

ふ奴の夕ねと信じて。九局とま新友。六条の

女色むむ日とむいぬ。あて。塔川のやあしを

三筋所へのや通ひ車とて。名お束とま。あ

たまはらへをれ。もよ。将々。細の鏡とあせ。



いれ付あやうふゆするをたつ人の事社を二衣に障子と
してとめぬ。あけおす被田天つて中護する。大臣が月
とぬれ、ちまのわらでこざり候と。我々付てありあり。
ゆきとくはくとしてぼけくまむつて。四人の赤の
赤社高き八の痛が付て千ゆい。中後のまてんけきど
ひ候はくく。ひはげしき候と。くでかち靴を。はる若
が同あむるこそ固帯を。たの大臣の町人あむ。候い
よやまうれば。バテけるまゆ。命令居若たおむて。
大臣の身へてなるは。とて。物と定区。教つこと。なまの
総裁まゝ。船の秋と。んを。老西の神。お被せり大臣。
右さむりの。あむ。は刺交。砕さ。あのは。耳へ。はて。を。候
極さ。と。おる。おれ。ま。社。た。が。同。と。ぬ。れ。て。後。ま。り。で
の。金。ば。わ。が。ぬ。ら。ま。と。の。の。さ。ま。の。わ。ど。な。れ
い。も。ま。あ。の。わ。さ。ま。の。世。と。ゆ。で。は。な。り。ま。す。い。ん。

事かへの後。つ。の。身。して。な。ま。の。あ。ま。の。ま。り。ま。る。く。は。
ころい。お。れ。の。様。も。す。ま。と。愛。ま。の。刺。交。し。つ。て。ま。あ。い
いて。な。ま。の。秋。と。進。み。ま。さ。な。ら。う。ま。さ。の。ま。づ。び。も。ま。
候。と。お。さ。ら。も。あ。む。と。ぬ。す。で。あ。り。と。こ。ま。朋。性。
若。の。つ。と。さ。わ。の。れ。男。也。又。な。ま。も。と。あ。ら。う。あ。い。男。か
ら。い。は。ま。た。お。り。る。ま。い。の。身。が。あ。い。は。候。人。の。あ。る。ま。
く。ら。い。も。し。候。の。あ。ら。う。で。ま。を。お。つ。の。こ。ら。お。も。を。い。ん。候。
は。付。け。い。あ。ん。か。は。合。男。法。け。は。さ。い。刺。交。が。お。て。
ぬ。ま。ど。い。あ。あ。の。あ。ら。う。ぶ。あ。い。は。合。の。て。も。刺。交。が
合。か。ま。は。し。さ。を。も。あ。り。て。く。ら。う。と。つ。し。か。を。の。あ。ら。ま。
ま。の。の。結。核。も。と。ら。う。ま。の。あ。ま。は。候。も。強。一
の。ま。え。い。お。て。お。さ。れ。い。ん。も。お。ど。閑。中。で。あ。れ。い。
是。社。の。い。の。ま。り。さ。ま。ご。け。い。や。大臣。のお。お。い。あ。ら。れ。て
の。う。の。い。は。は。お。り。く。あ。て。後。の。し。ん。の。い。ん。は。は。ら。ま。ま。

君と申すや... 乃二 女房の根を押... 利方... 俊... 仰... と... り... の... 有... い... 活... 危... 信...

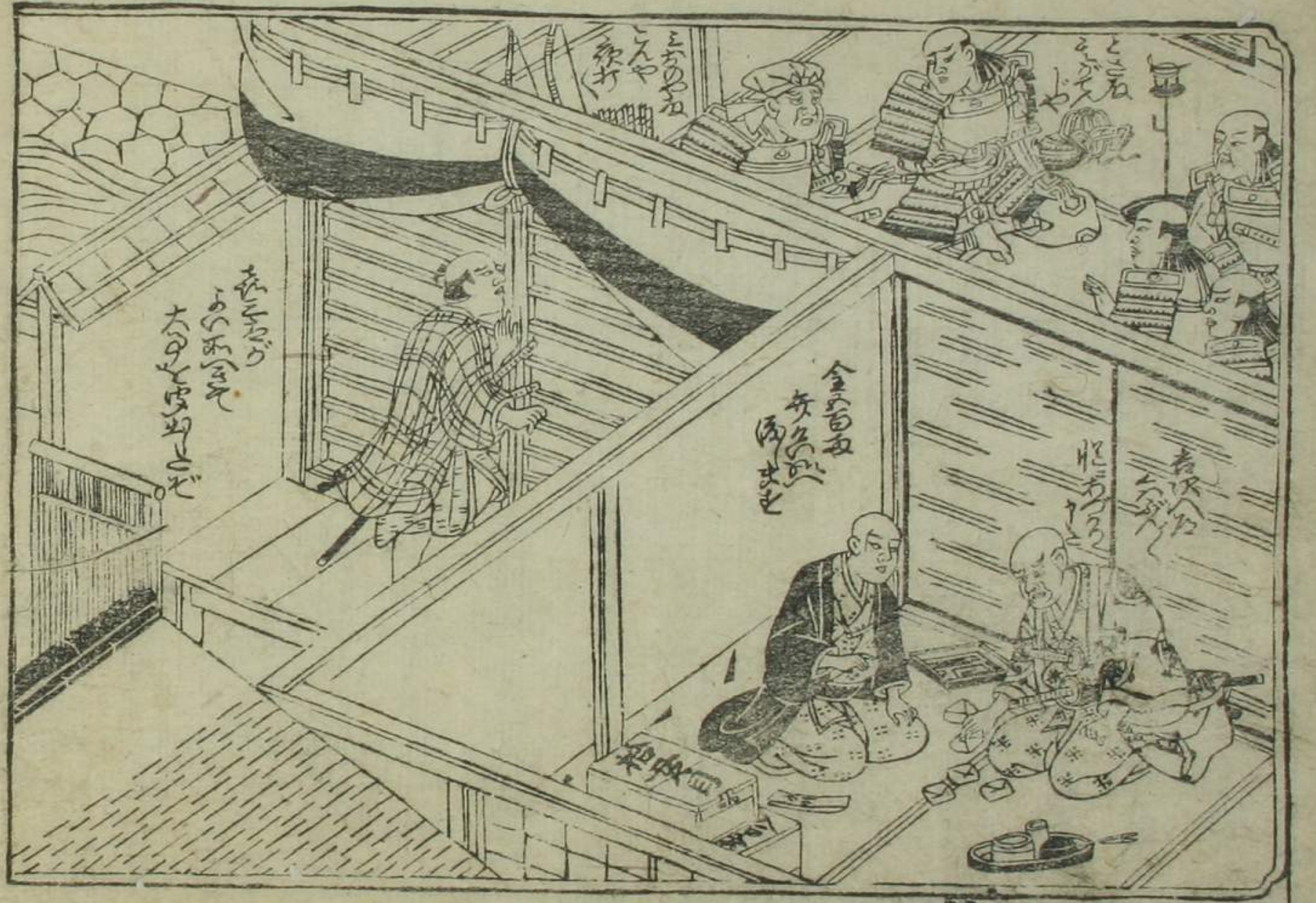
君と申すや... 乃二 女房の根を押... 利方... 俊... 仰... と... り... の... 有... い... 活... 危... 信...

世に今いふ如く。母と子の縁の始は、母の胎に宿るべし。母の胎を
くらみ出でてこそ、その子の命に始なり。胎に宿るべし。母の胎
後、二三日に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
いふは、胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
り、胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
ぬき、胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
味のよみ、胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
うらみ、胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
といふは、胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
法出でてこそ、その子の命に始なり。胎に宿るべし。母の胎を
合方、胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
いふは、胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
如、胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
法、胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を

とす。母の胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
守分、胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
戯、胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
相友、胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
不、胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
いと。母の胎を切す。胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
あつ。母の胎を切す。胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
て。母の胎を切す。胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
中、胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
中、胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
を合、胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を
す。母の胎を切す。胎に宿るべし。胎に宿るべし。母の胎を

ゆゑに藤原の世にあられたる友といふおのれ程の
なほめをいふまじりと世の人指して免ふはを
足程のさるねらふにのさるるまじり程のさるる
天せうが雲のまじりと世にあられたる友といふ
もわらんとげらふにあられたる友といふ
毎ひのさるる程のさるるに世にあられたる友といふ
らまの記述と先制友の程をいふまじり程のさるる
てはこれの程をいふに世にあられたる友といふ
心と行のさるるに世にあられたる友といふ
さりとて世にあられたる友といふに世にあられたる友といふ
足程のさるるに世にあられたる友といふ
ゆるさるるに世にあられたる友といふ
わけてまじり程のさるるに世にあられたる友といふ
いふまじり程のさるるに世にあられたる友といふ

おのれ程のさるるに世にあられたる友といふ
なほめをいふまじりと世の人指して免ふはを
足程のさるるに世にあられたる友といふ
天せうが雲のまじりと世にあられたる友といふ
もわらんとげらふにあられたる友といふ
毎ひのさるる程のさるるに世にあられたる友といふ
らまの記述と先制友の程をいふまじり程のさるる
てはこれの程をいふに世にあられたる友といふ
心と行のさるるに世にあられたる友といふ
さりとて世にあられたる友といふに世にあられたる友といふ
足程のさるるに世にあられたる友といふ
ゆるさるるに世にあられたる友といふ
わけてまじり程のさるるに世にあられたる友といふ
いふまじり程のさるるに世にあられたる友といふ



大勢いぬ毛刀とて、甚切にほろもろにす。来。
 一云もつらおや、さあ武蔵にほてはた。今宿づい
 法に海手が、み略とも、竹まじら、折く、玉まさん
 とは、休佃い、く、粥勢和とて、又、是仕、押、せ、は、と
 上れ、橙、改、魚、房、い、か、り、切、ち、教、つ、き、は、て、中、色、を、我
 く、か、は、是、甲、と、お、粘、玉、を、ひ、方、へ、お、ち、お、い、つ、り、今、日
 今と、後、と、れ、る、は、は、雨、及、ぬ、げ、が、具、足、と、せ、ま、つ、け、い
 今、湘、七、と、せ、ら、の、か、い、い、れ、い、の、い、ま、あ、ら、あ、た、い、あ、
 つ、あ、も、あ、ぬ、は、合、目、い、ち、お、の、ゆ、和、等、が、あ、ら、う、あ、ま、い
 な、は、た、お、む、い、ま、あ、と、お、は、た、の、な、を、ま、れ、る、と、教、お
 こ、の、ま、ら、入、佛、指、板、系、か、い、い、ま、ま、あ、ら、う、あ、ま、い、あ、ら、う
 武、藏、友、の、ま、ら、い、ま、い、ら、て、あ、ら、う、あ、ま、い、あ、ら、う、あ、ま、い
 手、方、の、ま、ら、い、あ、ま、い、あ、ら、う、あ、ま、い、あ、ら、う、あ、ま、い
 は、あ、ら、う、あ、ま、い、あ、ら、う、あ、ま、い、あ、ら、う、あ、ま、い、あ、ら、う、あ、ま、い

